

令和8年第1回姫路市議会定例会（未定稿）

令和8年3月5日（木）

○下林崇史議員（登壇）

日本維新の会、下林崇史でございます。

通告に基づき、6項目について質問いたします。一部、代表質疑と重複しているところもございますが、ご容赦願います。

1項目めは、消防団の装備品の改善についてお伺いいたします。

昨今、全国的にも火災だけでなく、自然災害により消防団の出動件数が増加傾向となっております。

また、団員の皆様には、ほとんどの方が本業の仕事をしながら、地域の防災減災活動を支える重要な役割を担っていただいております。

また、団員の高齢化、若者離れで団員減少も大きな課題となっております。

本市は新年度から、出動指令から事後処理まで一元管理できるアプリを導入し、DX化することで消防団員の事務負担が軽減されるようになります。

ただ、出動に関しては、苛酷な状況下で行われるため、団員の皆さんが安全かつ効果的に活動するためには、言うまでもなく万全な装備が欠かせません。

しかしながら、現状は手袋や長靴が日々の訓練や消火・防災活動などで損傷が激しく、一部の方は穴が空いてしまい水が染み込んでいる状況と伺っております。そんな声をお聞きすると大変心が痛みます。地域の年末警戒でもご挨拶をさせていただきましたけれども、本当に寒中、暑期中、豪雨の中など苛酷な状況で活動されていることに心から敬意を表します。

そこで質問させていただきます。

姫路市民の命と財産を守ってくれている団員の方々に対して、もう少し手厚く処遇改善していただきたいと思っております。

本来であれば、申請すれば公費で新しい装備品が交付されることになっているにもかかわらず、こういった声が上がってくるのは何か理由があるのでしょうか。団員の皆さんがまずは安全に活動できる環境を整えていきたいと思っております。

ご所見をお聞かせください。

2項目めは、小中学校等の防犯カメラの設置について質問させていただきます。

防犯カメラは、今や私たちの安全を守る上で欠かせない重要なものとなっております。

本市も、新年度から、市内の全68ヶ所の公民館にも順次防犯カメラの設置をいただく予定で、より安全に市民の皆様が公民館を利用できることに感謝いたします。

さらに、通学路や地域の安全を確保するため、自治会や自主防犯組織など地域団体への支援として、設置に要する費用の上限は1か所6万円で、助成枠を96台から新年度は150台へ引き上げていただき、こちらも感謝いたします。

昨年、市内の小中学校等へアンケート調査をさせていただきましたが、大切な姫路の未来を担う子どもたちが通う学校に、まだ防犯カメラが設置されていない学校もございます。

そこで質問させていただきます。

早期設置に向けた現在の進捗をお聞かせ願います。

3項目めは、市立図書館の防犯対策について質問させていただきます。

皆さんご存じの通り、先月福岡市の図書館で利用者3名が刃物で切りつけられる殺人未遂事件が発生し、容疑者は誰でもいいから人を殺したかったと供述していることが報道されております。

被害に遭われた方には心からのお見舞いを申し上げます。突然の出来事で体と心に受けられた衝撃やご負担は計り知れないものと思います。

本市も図書館で高齢者の方や勉強するために子どもだけで利用していたりと、不特定多数の方が利用されております。市民の方も安全策について大変心配されておりますので、ここで質問させていただきます。

現在図書館では、市民が安心して利用できるよう防犯対策はどのようにされているのでしょうか、ご見解をお聞かせください。

4項目めは、出会いから結婚支援についてお伺いいたします。

本市は少子化に歯止めをかけるために、他都市に比べても、先進的に様々な対策をいただいております。

マッチングアプリの利用料の助成、また、結婚相談所の入会助成、さらに、恋するバス旅シリーズも毎回かなりの人気となっております。

先月も恋するバス旅には108名の方の申し込みがあり、抽選で約30名の方に参加いただき、播磨国総社にて本格神前式の模擬挙式や模擬披露宴を体験いただき、めでたくカ

ップルが8組も誕生したと伺っております。

参加者からは、「普段本殿に上がることがないので、初めて神前式を体験することができ、本当によかったです」との声が多かったようです。

今回の恋するバス旅は1度終了となりますが、本市として新年度は新たにどういったすばらしい出会いの場を計画されているのでしょうか、ご所見をお聞かせください。

5項目めは、ヘルプマークについて質問させていただきます。

ヘルプマークは、体に障害や病気をもつ、またはその可能性がある方が周囲の人々に対して助けを必要としていることを示すための赤いハート型のマークです。

このマークは特に目の見えにくい障害や病気を抱える方々が公共の場において安心して移動するためのものであり、周囲の理解と配慮を促進するためのもので、地域社会における障害に対する理解が深まり、障害者の方がより自立して生活できる環境づくりにつながることを期待されております。

また、地域住民一人一人の理解が進むことで、ヘルプマークを持つ方々が安心して外出できるようになり、定期的に周知活動が必要不可欠となっております。

そこで質問させていただきます。

現在本市では、ヘルプマークの周知はどのようにされているのでしょうか。姫路市公式LINEやSNSも活用されているのでしょうか、ご所見をお聞かせください。

6項目めは、職員の人事異動について質問させていただきます。

一般的には、公務員の人事異動発令は4月1日付けが多く、本市も同じですが、3月25日前後の議会の表決を得て発表されますので、課内のメンバーが決まった後に、課内配置換えがあります。

そのため、引き継ぐ相手が決まるのは、大体3月26日または3月27日で、土日が含まれると引継ぎはたった2日程度となっております。

前任者から後任への引継ぎと、さらに新部署では後任となり、新しく引継ぎが必要になるので、引継ぎする時間が全く足りてない状況でございます。

これは市民サービスにもかなり影響が出ているのではないかと推察いたします。

神戸市では、すでに3年前から人事異動の発表を業務の引継ぎなどをよりスムーズに進めるために、発令は同じ4

月1日付ですが、局長級は今年さらに前倒しの1月15日に発表されました。

十分な引継ぎ期間を設け、着任後に円滑に業務を始められるように改善されております。

また、部長級以下は、3月中旬に発表され、同じく、今までであれば、2、3日しかなかった引継ぎ期間から2週間ほど引継ぎ期間があるため、職員の苛酷な引継ぎでの残業もかなり軽減され、働き方改革にも順次、円滑に業務を始められるようになり、市民サービスの向上にも繋がっていると伺っております。

そこで質問させていただきます。

本市も、神戸市のように、早い段階での人事異動を発表され、引継ぎ業務を円滑にしていくことは可能なのでしょうか、ご見解をお聞かせください。

以上で私の第1問を終わります。

○石堂大輔議長

井上副市長。

○井上泰利副市長（登壇）

私からは、1項目めについてお答えします。

消防団員の装備品につきましては、入団時に一式を貸与し、その後は分団交付金での更新や災害時に破損や汚損した場合は、申請に基づき再貸与することで、団員の安全確保に努めているところでございます。

今後姫路市が購入を取りまとめ、より安価に調達できる仕組みを構築するべく、現在取り組んでいるところでございます。

これにより、更新手続きの簡素化を図り、安全に活動できる環境整備につなげていきたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

岡本副市長。

○岡本 裕副市長（登壇）

私からは5項目めについてお答えいたします。

本市ではヘルプマークを広く周知するため、本市ホームページへの掲載をはじめ、毎年開催をしております障害者差別解消法に関するイベントにてチラシや啓発品の配布、庁内へのポスター掲示など普及啓発活動に取り組んでおります。

今後は、姫路市公式LINEを初めとするデジタル媒体等、様々な手段を活用し、ヘルプマークをより広く周知するよう取り組んでまいります。

以上でございます。

○石堂大輔議長

平山教育次長。

○平山智樹教育次長（登壇）

私からは2項目め及び3項目についてお答えいたします。

まず、2項目めについてでございますが、小・中学校への防犯カメラの設置につきましては、民間団体の協力を得ながら、自動販売機の売上げによる防犯カメラの設置及び運用を検討しております。

現在、市内3校をモデル校として、設置場所等の調査を進めております。

今後、モデル校の設置状況等を踏まえて、各校へ順次拡大していきたいと考えております。

次に、3項目めについてでございますが、姫路市立図書館におきましては、全ての館に防犯カメラを設置し、カウンターで職員が映像を確認できるようにしております。

また、万が一の場合に職員が対応できるよう、危機管理マニュアルにおいて避難誘導や通報の役割を定めるとともに、警察官立寄所等の掲示や、必要に応じた巡回強化の依頼など警察との連携も行っております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

松本こども未来局長。

○松本 浩こども未来局長（登壇）

私からは、4項目めについてお答えいたします。

令和8年度の新規事業として、市内在勤者等を対象とした出会い交流イベントを予定しております。

参加者数100名程度で、市内の在勤または在住者を対象とすることで、参加者には本市を起点とした出会いを、交際継続の契機にさせていただきたいと考えております。

また、内容につきましては、男女のマッチングイベントの実績のある事業者のノウハウを生かした、会話のきっかけになるようなコンテンツを取り入れることなどを想定しております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

平田総務局長。

○平田貴洋総務局長（登壇）

私からは、6項目めについてお答えいたします。

職員の人事異動の内示時期につきましては、適材適所の配置に向けた慎重な検討や出向先等との関係機関との調

整が必要であることに加え、議会での承認議案とも密接に関係することから、組織改正や人事案件等の議会の議決を待って発表するという取扱いとしておりました。

一方、内示から発令までの時間が短いことで、引継ぎ作業に伴う時間外勤務が増加するケースもあったことから、昨年4月1日付の人事異動におきましては、円滑な業務執行を優先し、3月24日に内示を行うこととし、これにより、土日の休日を除き、5日間の引継ぎ期間を確保できるよう日程を調整したところでございます。

今後におきましても、内示の発表にあたっては、議会における審議の状況を十分に尊重しつつ、他都市の事例も参考にしながら、円滑な業務引継ぎができるよう配慮し、市民サービスの質の維持に努めてまいります。

以上でございます。

○石堂大輔議長

7番 下林崇史議員。

○下林崇史議員

それぞれ丁寧にご答弁いただき、ありがとうございます。

1項目めの消防団の装備品改善について再質問させていただきます。

新規入団された方を除き、全体の72分団で見たとき、実際はどのくらいの期間を経て、長靴や手袋の交換申請をされ、平均で何件ほど交換依頼が入っているのでしょうか。

活動量にもよりますが、長い方で、何十年も最初に提供された長靴や手袋を使っている方も、団員もいると伺っております。

ご回答よろしく願いいたします。

○石堂大輔議長

井上副市長。

○井上泰利副市長

消防団員の装備品の定期更新につきましては、各分団の判断によるため、市として市内全分団の更新期間は定めておりません。

現在貸与している長靴につきましては平成27年度に、活動服につきましては平成30年度、31年度に全団員に貸与しております。

貸与品に関しましても、個々の団員による更新時期の把握はしておりませんが、消防局に更新申請があった中では、多い年で年間60件程度の申請の受理がございます。

今後、この既存制度の周知徹底を図るとともに、年2回実施されます新入団員の装備品と合わせた一括購入の仕

組みを活用して、各分団の計画的な装備品の更新を後押ししたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

7番 下林崇史議員。

○下林崇史議員

ありがとうございます。

ご回答いただきました通り、新規の方の装備品を発注される際には、各団で必要とされる装備品も確認いただき、その分も一緒に発注していただき、団員へ貸与していただきたいと思っております。

また、年に1度はですね、各団単位で団員の方々からの要望等ないかですね、アンケート調査も実施していただき、フィードバックを基に、その意見を可能な範囲で反映していただくことで、より強固な地域の安全が創出できるのではないかと考えております。

その点についてもご所見お願いいたします。

○石堂大輔議長

井上副市長。

○井上泰利副市長

団員の意見の聴取につきましては、まず数か月に1回程度実施しております各消防団の会議などの場で意見を集約しております。

また、先ほどの提案がございますアンケート調査につきましては、令和4年度に全団員を対象として実施をしております。

アンケート調査は現場の声を把握するとともに処遇改善を進める上で有効な手段であると認識をしておりますので、今後、また必要に応じてアンケートの実施をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

7番 下林崇史議員。

○下林崇史議員

ありがとうございます。

引き続き、団員の方々が活動しやすいよう、随時可能な範囲で改善していただきたいと要望させていただきます。

それでは次の質問に移らせていただきます。

2項目目の小中学校等への防犯カメラ設置についてですが、設置に向けて進めていただいていることを認識いたしました。ありがとうございます。

子どもたちが安心して学べる環境づくりのためには、もっと早く設置したらよかったとならないためにも、スピード感を持っていただき、あらゆる情報や手段を用いて早期に設置していただきたいと、よろしくお願い申し上げます。

こちらに関しましては以前も幾度か質問させていただいておりますので、再要望とさせていただきます。ありがとうございます。

次に、3項目目の市立図書館の防犯対策について再質問させていただきます。

市内の全図書館に防犯カメラも設置され、安全対策とされていることを認識いたしました。

さらに、利用者の方へ、万が一に備え、入口に防犯対策の周知チラシの掲示や配布、また、受付で身分証などの提示をして入館できるなど、より安心安全の対策をしていただきたいと考えますが、ご見解をお聞かせください。

○石堂大輔議長

平山教育次長。

○平山智樹教育次長

図書館は誰もが自由に利用できる施設であり、開放性と防犯性のバランスをとることは難しいため、入館に際し身分証の提示を求めることは困難であると考えております。

現在、館内には防犯カメラ設置等の掲示を行っておりますが、加えて、議員お示しの図書館を利用される子どもたちや保護者に少しでも、安心感を持っていただけるような周知チラシの提示を検討してまいりたいと思っております。

今後も職員の防犯意識をより高めるように努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

7番 下林崇史議員。

○下林崇史議員

ありがとうございます。

ぜひ周知チラシの方、よろしくお願いいたします。

入館時の受付で身分証の提示は難しい問題ですが、市民の安心安全を一番に考えていただき例えばA I 認証を導入するなど、ぜひ、さらなる安全対策も検討いただきたく要望して次の質問に移らせていただきます。

4項目目の出会いから結婚について再質問させていただきます。

新年度のイベント開催は年に1回程度と事前にお伺いし

ておりましたが、バスチャーター費用もなく、参加費もいただき、予算も抑えることができますので、前回のイベントでも100名を大きく超える申し込みがありましたので、せめて年に2回は実施していただきたいと思いますが、ご所見をお聞かせください。

○石堂大輔議長

松本こども未来局長。

○松本 浩こども未来局長

お答えをいたします。

イベント規模が、参加者数百名程度と大きく、市内の在勤または在住者を対象と限定していることから、事業初年度となる令和8年度につきましては、まずは1回実施し、応募者数や参加者へのアンケートの結果等を踏まえながら、実施回数を検討していきたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

7番 下林崇史議員。

○下林崇史議員

ありがとうございます。

ぜひ、中身も工夫していただいて、費用も抑えることができますので、ぜひ実施していただきたいと思います。

ここ数年は、コロナ禍における出会いの機会が大きく減った影響もあり、また、昔はおせっかいなおばさんやおじさんなどと言われる方もいましたが、今はセクハラやモラハラ問題になってしまいますので、コミュニティが希薄ななっています。

そこで今回は気軽に参加できる出会いがメインのイベントということで、たくさんのお出会いが期待されるかと思いますが、今後はまた、結婚への機運が高まるよう、若い方々が結婚式のすばらしさを体験できるようなイベントも少し盛り込んでいただきたいと思いますが、ご見解をお聞かせください。

○石堂大輔議長

松本こども未来局長。

○松本 浩こども未来局長

お答えいたします。

市内在勤者等を対象とした出会い交流イベントですが、参加対象となる若い世代の、まずは婚活に対する心理的なハードル、そこに配慮しつつ、新たな出会いに関心を持ってもらえるような、まずは、繰り返しになりますが気軽に参加できるイベントとしたいというふうには考えてござ

います。

以上でございます。

○石堂大輔議長

7番 下林崇史議員。

○下林崇史議員

ありがとうございます。

ぜひ若者から参加してよかったとの声が多く寄せられるイベントの実施を引き続き、よろしく願い申し上げます。

それでは次の質問に移らせていただきます。

5項目めのヘルプマークについて再質問させていただきます。

実際にヘルプマークを利用されている市民の方からのご要望がございまして、バスで通学、通勤中にリュックやかばんにヘルプマークをつけているようで、かばんを背負っている際には、後ろの方にはヘルプマークが見えるのですが、前からはヘルプマークは見えません。

外見からは健常者と認識され、バスや電車で混み合っている場合、席に座りたくても声が出せなく、不安な思いをしている方々が一定数いらっしゃいます。

「私、ヘルプマーク持ってますけど」と自らアピールされる方はまずいないと思います。

原則、ヘルプマークは交付が1つとなっておりますが、もう1つあれば前からかけるなど、首からかけるなどして、前からも周りの方々へ周知することが可能となると思いますが、対応策として追加で交付していただくことは可能なのでしょうか、ご所見をお聞かせください。

○石堂大輔議長

岡本副市長。

○岡本 裕副市長

ヘルプマークの交付事務につきましては兵庫県要請によりまして行っております。

ヘルプマークの追加交付ということにつきましては、県内一律の運用に基づいた対応となることから、本市単独での判断はいたしかねますが、市民の方からそのような声があることは兵庫県に伝えてまいりたいと考えております。

今後、利用者がヘルプマークを周囲に見えやすいところにつけていただけるように、配布時にはお声かけをするなどしてまいりたいと考えております。

あと、ヘルプマーク以外にもですね、ヘルプカードというのがございまして、そのヘルプマーク、ヘルプカードそ

れぞれを2つ目をお渡しすることはできないんですけども、ヘルプマークとあわせて、そのヘルプカードというのは配布できることになっておりますので、マークとカードとを2つお持ちいただくことはできるかと思えます。

以上でございます。

○石堂大輔議長

7番 下林崇史議員。

○下林崇史議員

ありがとうございます。

ヘルプカードをですね、提示できる、通常の健常の方だったらできるかと思うんですが、なかなか難しい方が多いっていうことで、ご意見をいただいております。

それでは続けます。

交付が難しいことを理解いたしましたが、障害をおもちの方々にも少しでも公共の場が安心できる環境であるよう、引き続き改善策を検討いただきたく、また、市内の小中学校では、授業等も周知されてないと伺っております。

学校でも年に1度は外見からは分からない障害、難病、妊婦初期の方々など配慮を必要としている人がいることを児童生徒へ周知をいただきたく要望して次の質問に移らせていただきます。

次に、6項目めの職員の人事異動についてですが、人事発表を早めることで職員はもとより、市民にとってサービス向上にもつながってまいりますので、先ほどご答弁いただきましたが、昨年は3月24日に案内があり、1日早くしていただきましたが、今後は神戸市のように2週間ほど前に発表していただき、十分な引継ぎができる環境づくりをすることで市民サービス向上にも寄与できると確信しておりますので、引き続き改善していただきたく、強く要望させていただきます。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○石堂大輔議長

以上で、下林崇史議員の質疑を終了します。